

物理学概論第一



- 我々の目標: 物体の位置ベクトルを追跡

$$\mathbf{r}(t) = [x(t), y(t), z(t)]$$

- そのための武器:

$$\frac{d^2 \mathbf{r}(t)}{dt^2} = \frac{d\mathbf{v}(t)}{dt} = \mathbf{a}(t)$$

$$m\mathbf{a} = \mathbf{F}$$

$$\mathbf{F} = m\mathbf{g}$$

$$\mathbf{F} = -\lambda \mathbf{v} - \beta |\mathbf{v}| \mathbf{v}$$

$$F = -kx$$

- 運動方程式を積分し, 位置ベクトルを求める
- 今日は, 弾性力 $F = -kx$ による運動を考える

弾性力 - フックの法則

③

- 弾性力: 固体を変形させるとき, 変形を元に戻そうとして働く復元力

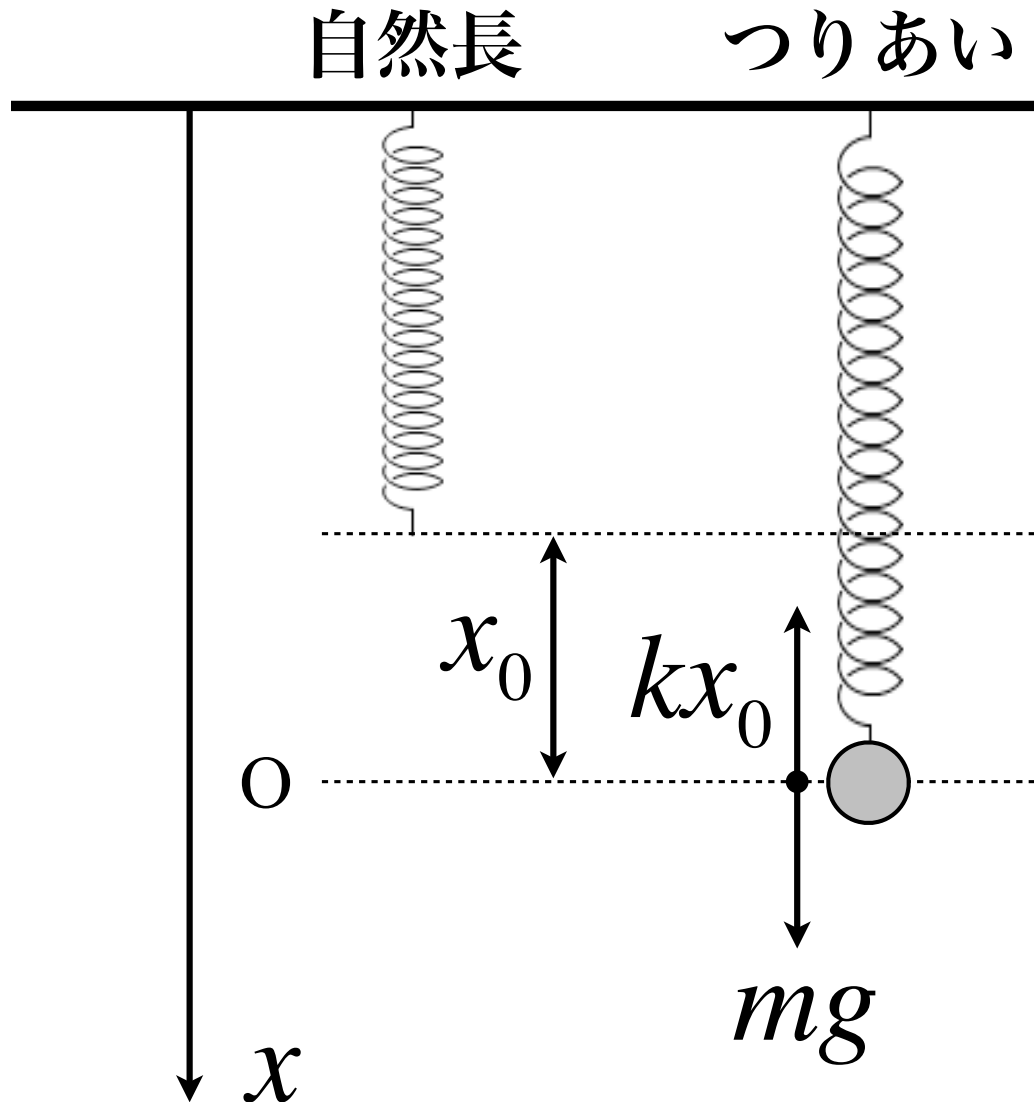
弾性定数 (正の値)

$$F = -kx$$

自然な状態からの変形の大きさ

ばねにおもりを吊す

④



重力 mg と弾性力 kx_0 が
つり合っている状態

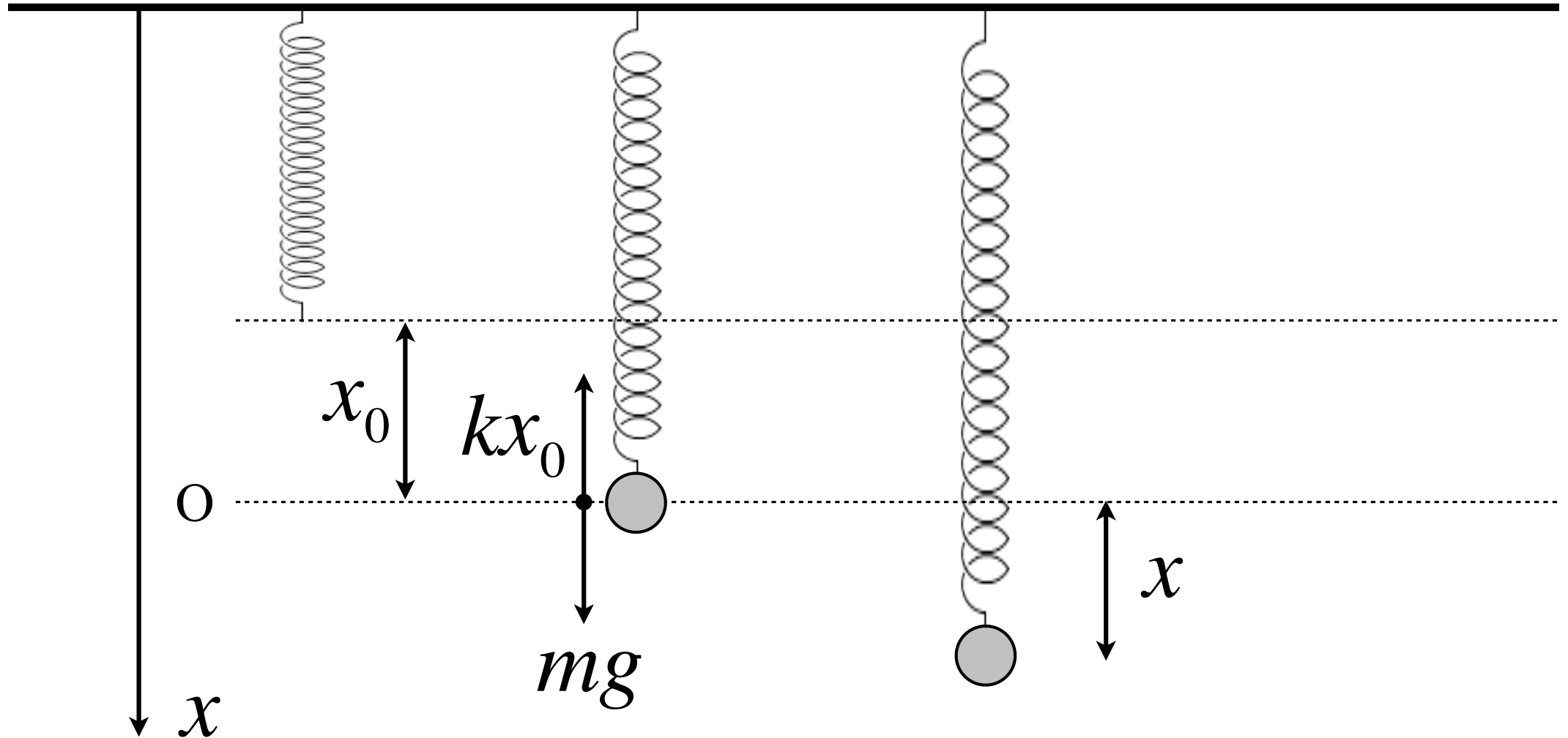
さらに引っ張って離す

5

自然長

つりあい

さらに x だけ下へ



つりあいの位置を通り過ぎる

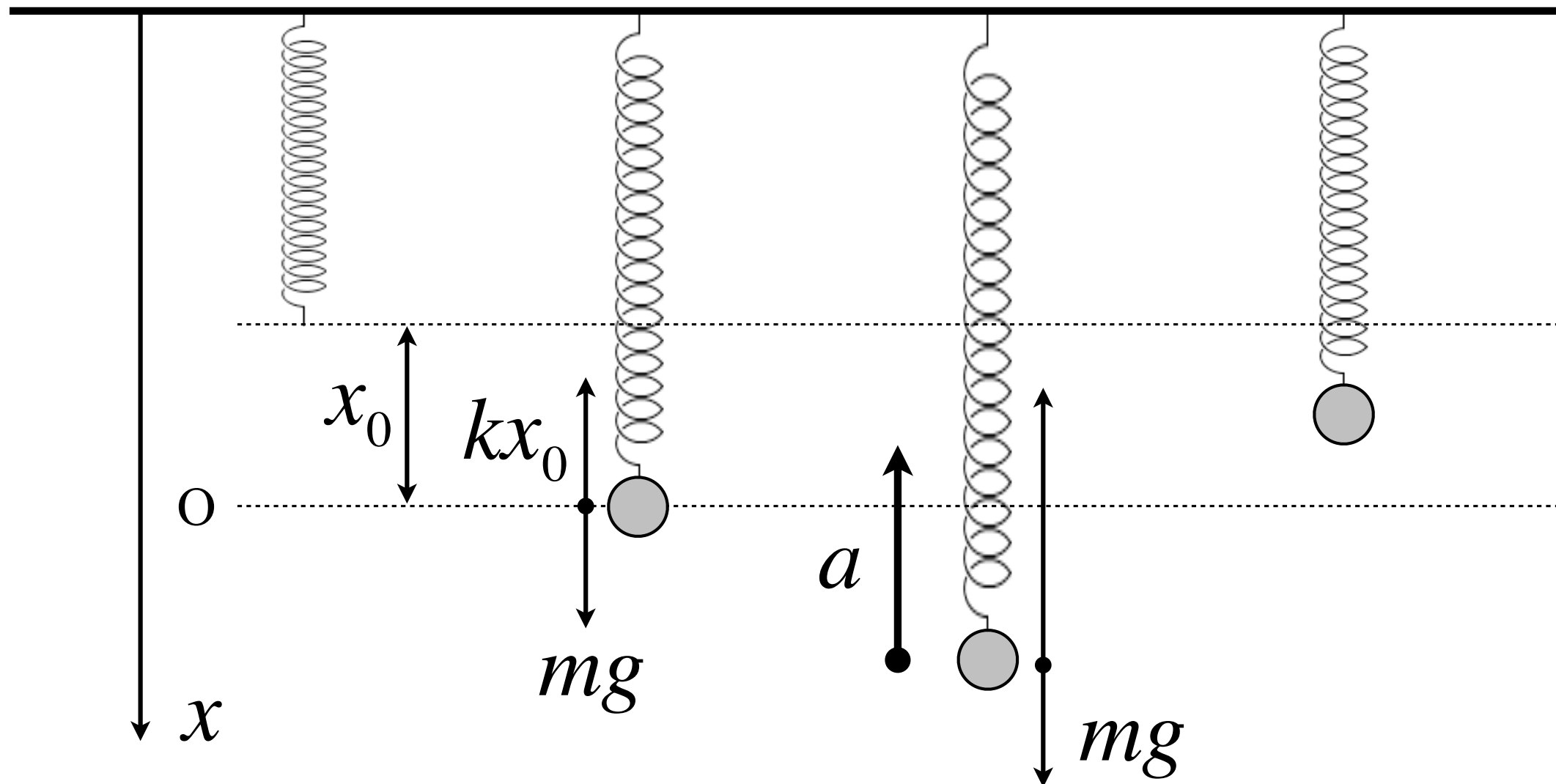
⑥

自然長

つりあい

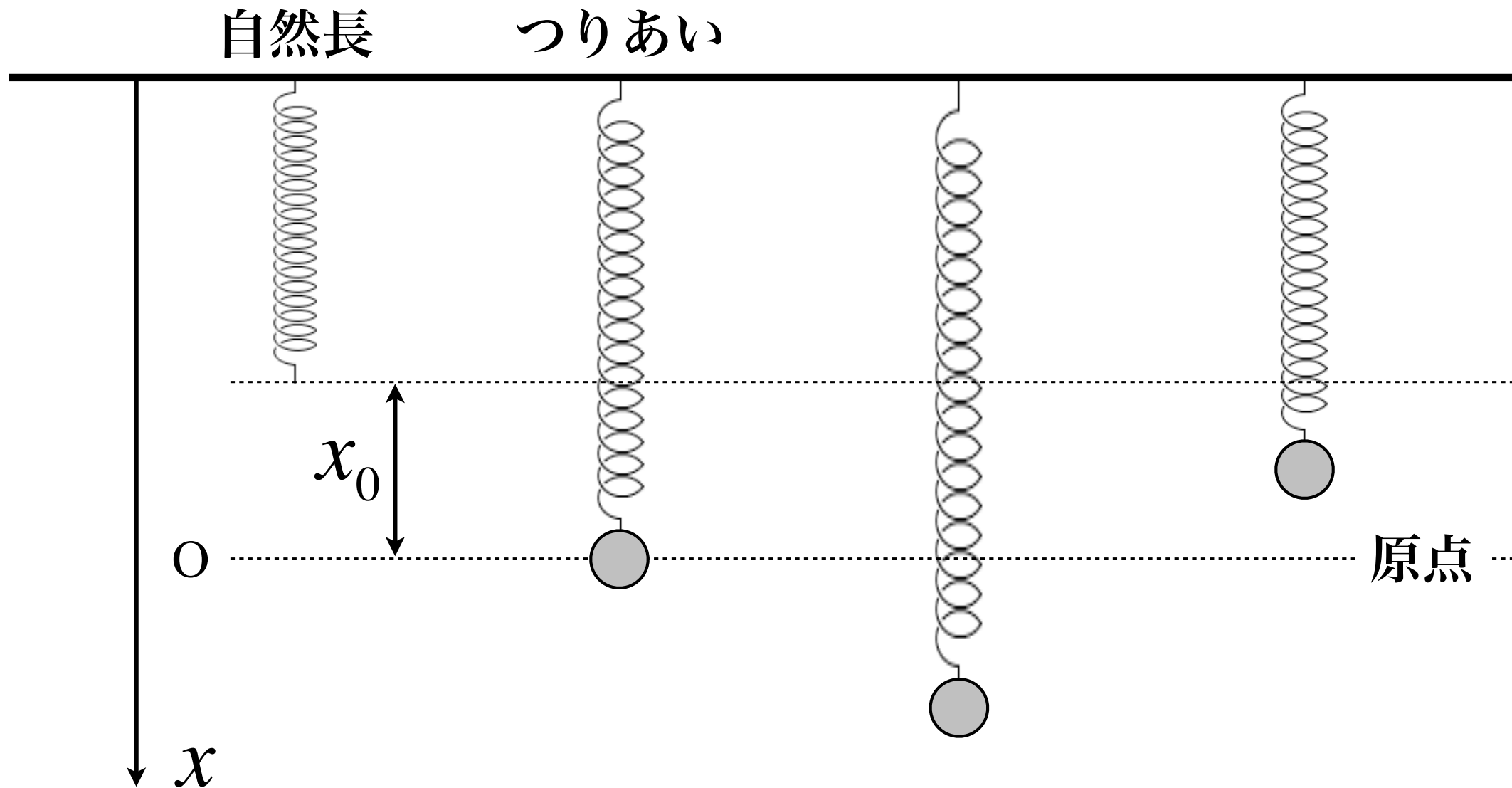
さらに x だけ下へ

戻りすぎる



これがいわゆる単振動

7

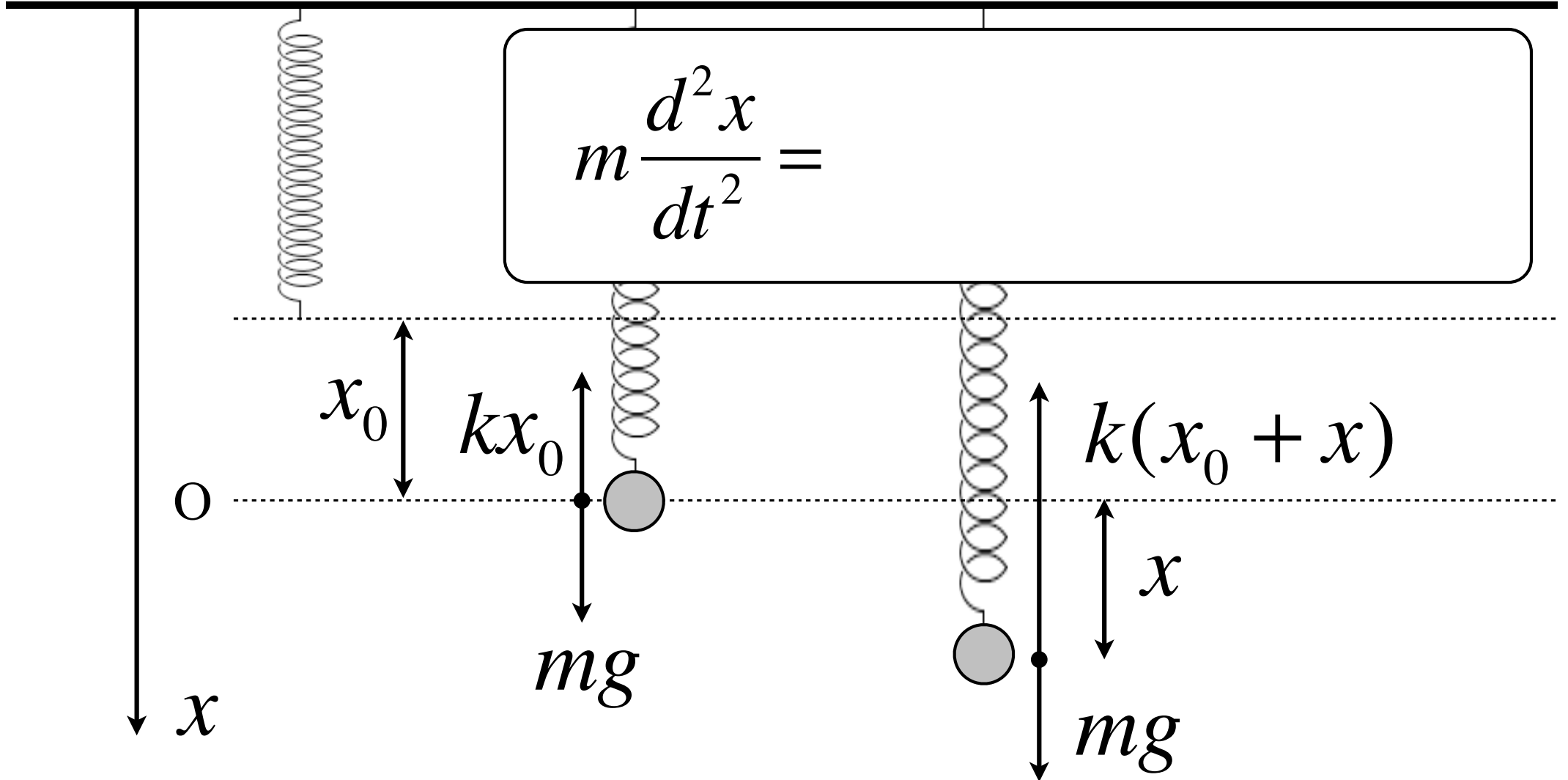


おもりの運動方程式

8

自然長

つりあい



単振動の従う微分方程式

⑨

$$m \frac{d^2 x}{dt^2} = -kx \iff \frac{d^2 x}{dt^2} = -\frac{k}{m} x$$

単振動の微分方程式

$$\frac{d^2 x}{dt^2} = -\omega^2 x$$

微分方程式の一般解を探す

⑩

- 時間で 2 回微分すれば, 元の関数の $-\omega^2$ 倍になるような関数を探す. ひとつの候補は,

$$x(t) = A \cos(\omega t + \theta_0)$$

$$v(t) = \frac{dx(t)}{dt} =$$

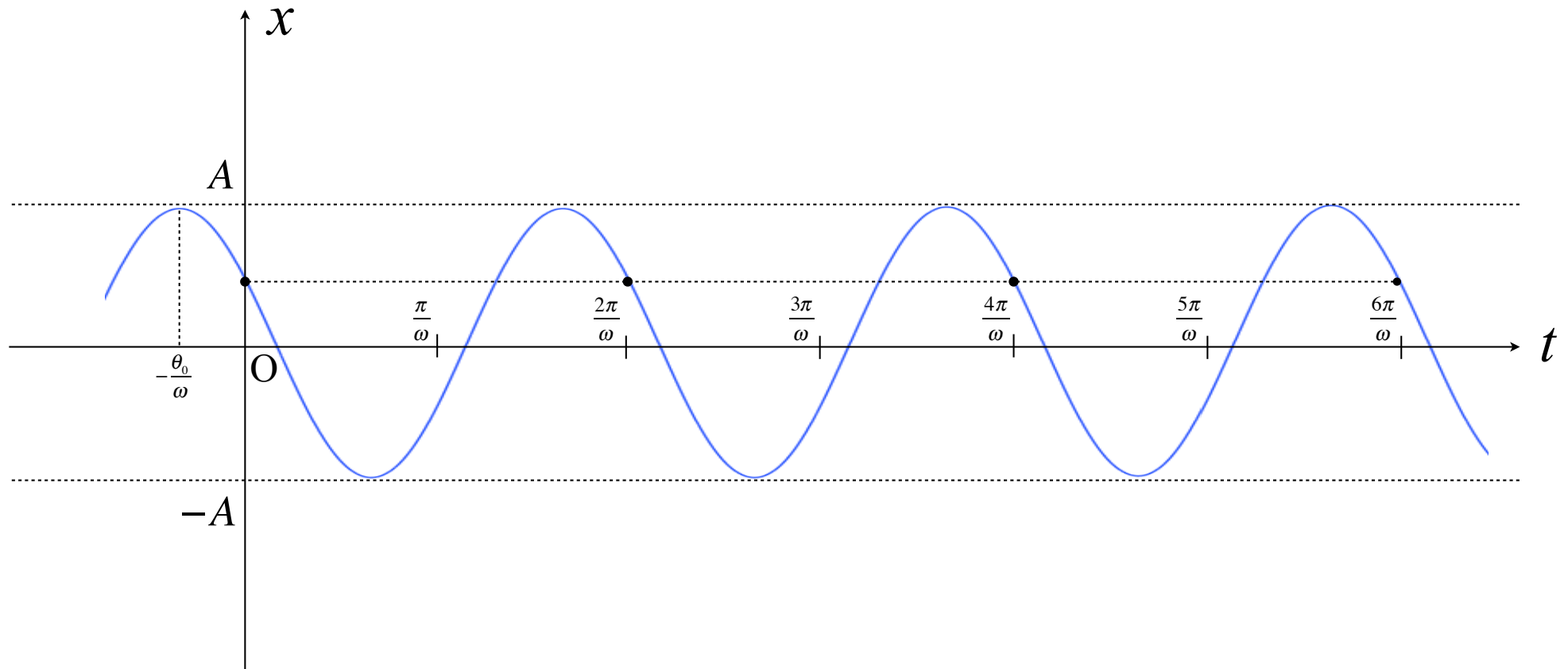
$$a(t) = \frac{d^2 x(t)}{dt^2} =$$

一般解の形

11

- 一般解 $x(t) = A \cos(\omega t + \theta_0)$ を描いてみる

$x = A, -A$ の間を往復する周期運動

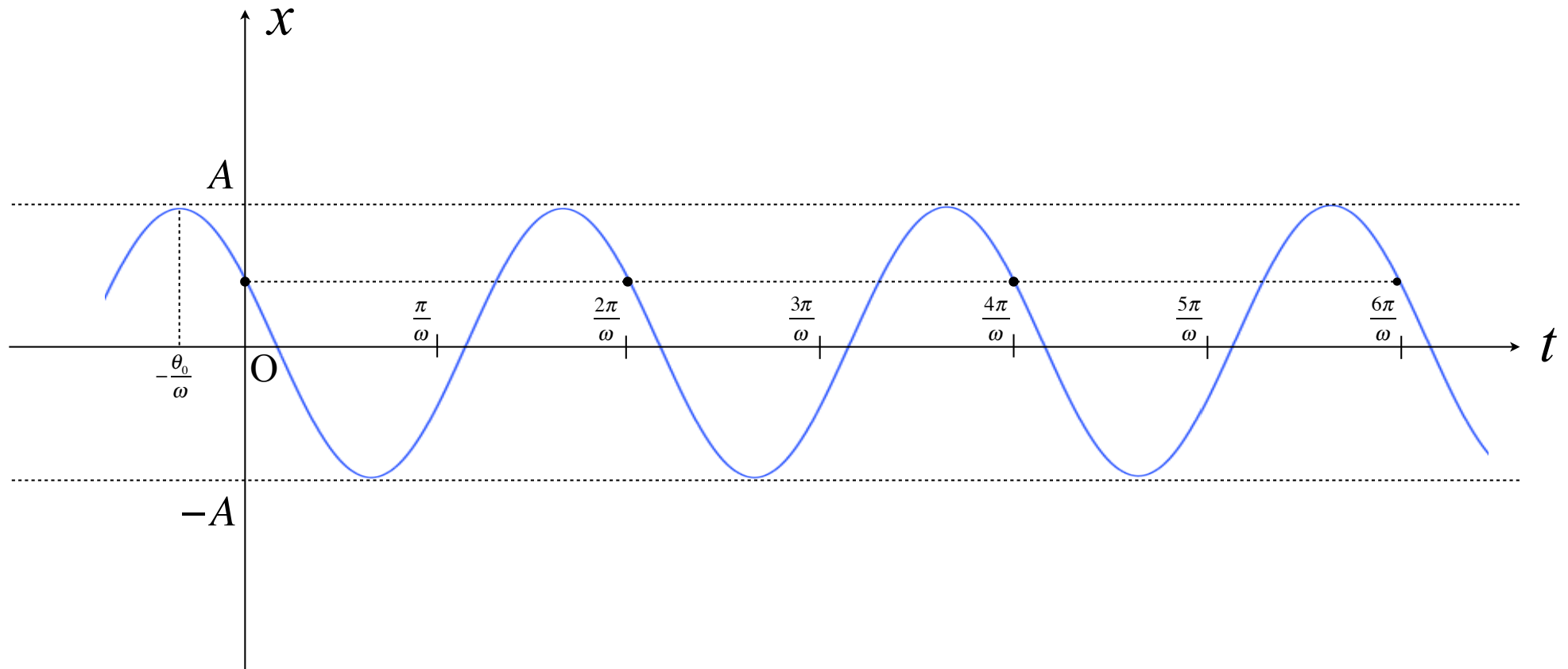


位相という概念

12

- 一般解 $x(t) = A \cos(\omega t + \theta_0)$ を描いてみる

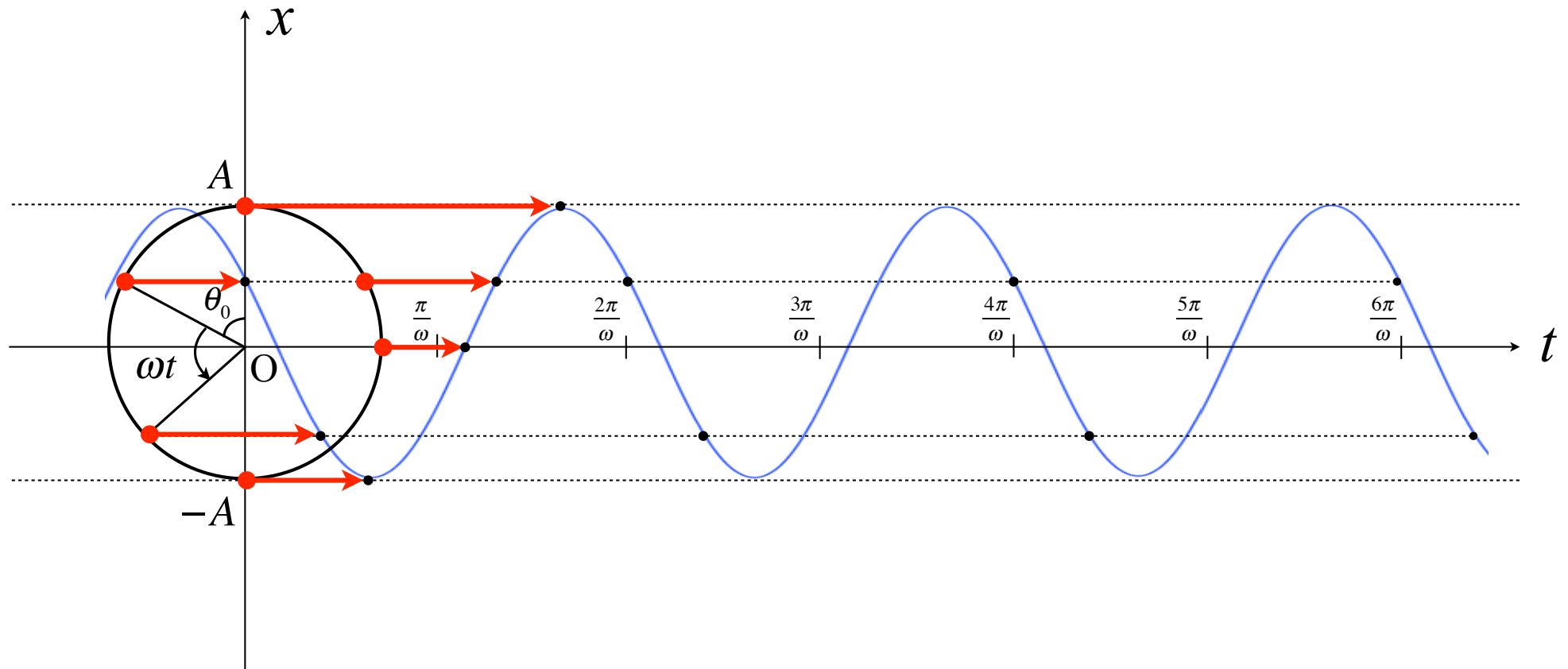
位相 - Phase



単振動と等速円運動

13

- 単振動の変位 = 等速円運動の x 座標

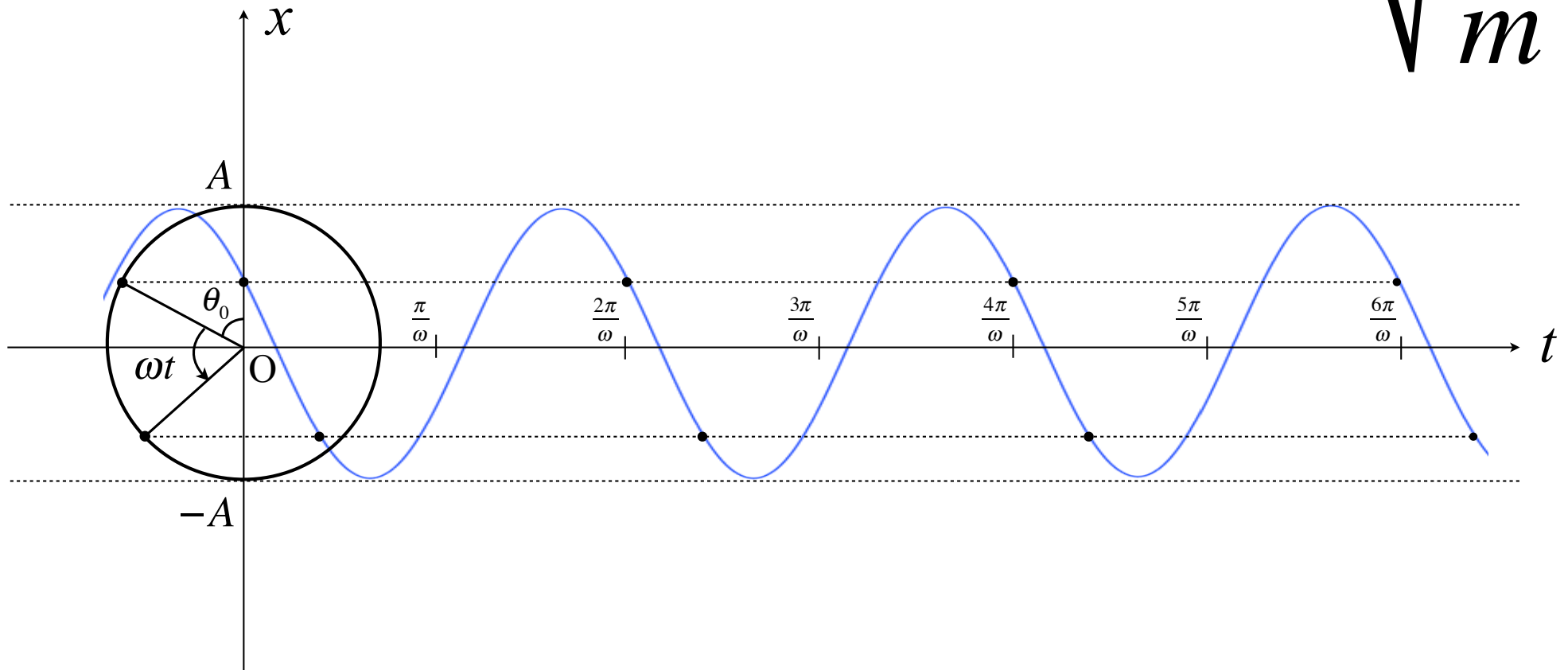


角振動数: ω

14

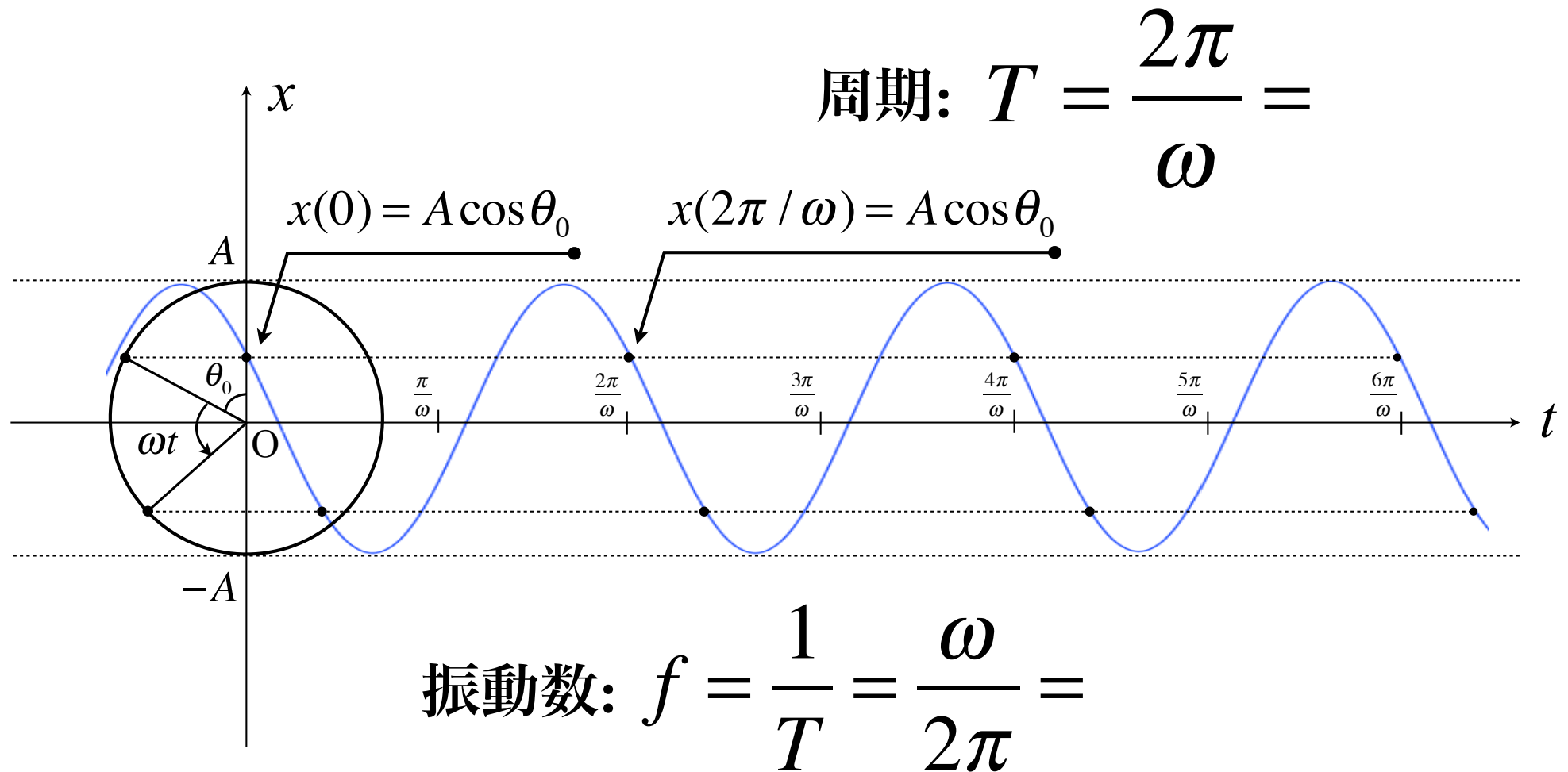
- 等速円運動の角速度に相当する

$$\omega = \sqrt{\frac{k}{m}}$$



周期性を表現する物理量: T, f ⑮

- $2\pi / \omega$ ごとに同じ運動状態になる



周期性を決める要素

16

- 振動数の式を良く見てみる...

$$f = \frac{1}{2\pi} \sqrt{\frac{k}{m}}$$

→ k が大きい
→ f が大きい

→ m が大きい
→ f が小さい

- しかし, f は振幅 A には依存しない: 等時性

特殊解を求めるには...

17

- $x(t) = A \cos(\omega t + \theta_0)$ はあくまで一般解
- A とか θ_0 を決めて, 特殊解を求めたい
- 特殊解を求めるには, 初期条件が必要

初期条件:

$t = 0$ で, おもりの位置 x_0 , 速度 v_0 とする

任意定数は初期条件に対応

18

$$x(t) = A \cos(\omega t + \theta_0) \longrightarrow x(0) =$$

$$v(t) = -\omega A \sin(\omega t + \theta_0) \longrightarrow v(0) =$$

$$x(t) = A \cos(\omega t + \theta_0)$$

=

弾性力による位置エネルギー

①9

- ばねの弾性力による単振動の位置と速度は,

$$x(t) = A \cos(\omega t + \theta_0), \quad v(t) = -\omega A \sin(\omega t + \theta_0)$$

- これを用いて以下の量を計算してみる

$$\frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2}kx^2$$

弾性力による位置エネルギー

20

$$\frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2}kx^2 =$$

$$\frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2}kx^2 = \text{Const.}$$

単振り子というものもある

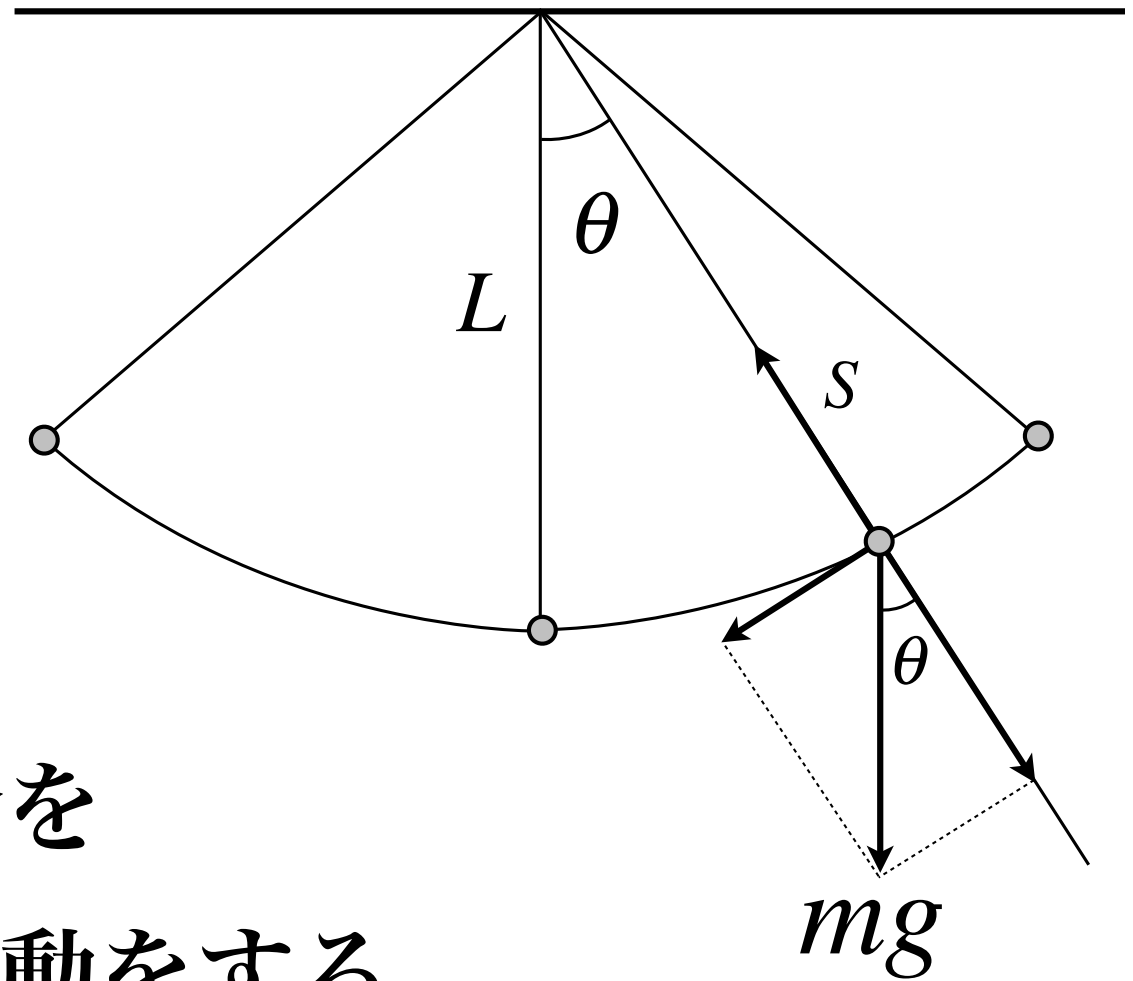
22

- 振り子に働く力

- 糸の張力 S

- 重力 mg

- mg の接線方向成分を
復元力とする往復運動をする



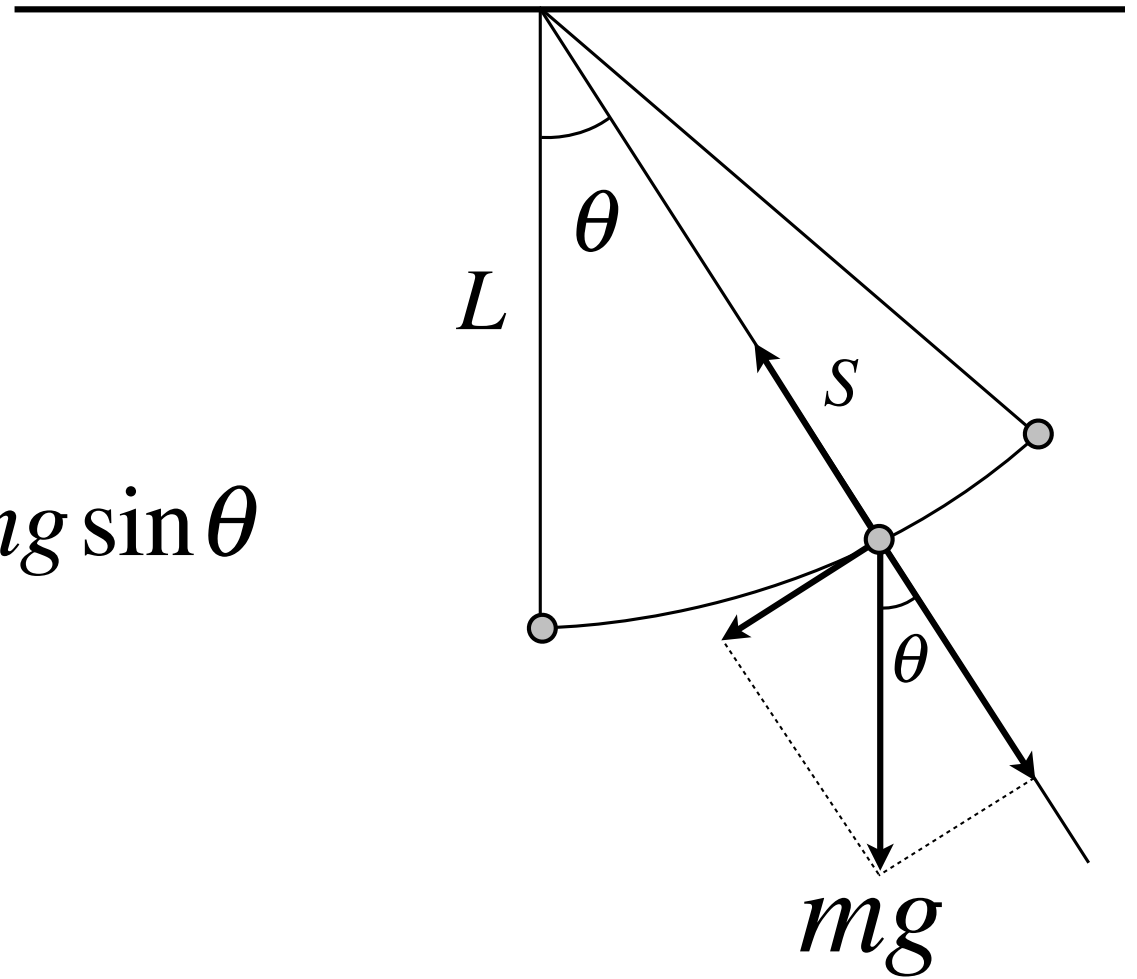
単振り子の運動方程式

23

- 運動方程式は,

$$\begin{aligned} m \frac{d^2 x}{dt^2} &= m \frac{d^2 (L\theta)}{dt^2} \\ &= mL \frac{d^2 \theta}{dt^2} = -mg \sin \theta \end{aligned}$$

$\Leftrightarrow$



微分方程式の一般解は？

24

$$\frac{d^2\theta}{dt^2} = -\frac{g}{L}\theta = -\omega^2\theta, \quad \omega =$$

一般解

$$\theta =$$

周期:

$$T =$$

振動数:

$$f =$$

